

運動部員に対する一般学生の態度

神 代 古 典

The feeling of the students in general to the sports-club students.

Hisanori KAJIRO

Needless to say, sports-club activities at college should be supported by the students in general. Some studies, however, show that, among students, there seems to exist an unfriendly feeling to those who belong to the sports clubs. In this report we will show what it really is and clear up the causes.

I 研究の目的

運動部活動は、運動部に所属していない、いわゆる一般学生の支持を受けて、展開されていることが望ましいのは、いうまでもないことである。しかし、実際は、運動部活動は、一般学生と遊離し、一般学生とは無縁の活動であることが、多いように思われる。その傾向は、運動部活動がレベルアップし、「強く」なればなるほど、強まり、それに比例して、一般学生の運動部に対する態度は非好意的方向へ傾斜していくのではないと思われる。このことは「強い」運動部をもつ大学においては、一般学生の運動部に対する態度が非好意的であるという小林の調査結果*によって、ある程度実証されている。

本研究は、この小林の調査を追試すると共に、同様の傾向が見出された場合、その原因を分析し、説明することを目的とする。

II 研究の方法

リッカート法によって、態度尺度を作成し、運動部員に対する、一般学生の態度を測定した。まず、愛知工業大学2年生120人に、運動部員に関する意見を自由に記述させ、これに筆者の創案した意見を加え、計60個の意見をもって調査票を作成した。反応は「賛成」「どちらでもない」「反対」の3反応形式の回答カテゴリーを持つ。

この調査票によって、1969年4月～5月、表1に示す、8大学の2年生（一般学生）687人を対象に調査を実施した。回答に際しては、「運動部員一般」ではなく、自分の大学の運動部員を念頭に置くよう指示した。なお、対照群として、運動部員71人からも回答を得た。

各大学とも体育の授業時間内に調査を実施したので、被調査者は、無作為抽出されたものではない。したがって調査結果をもって、そのまま、その大学の2年生の態度とすることはできないが、およその傾向を示すものとして把握することは許されると思います。

表1 被調査者の内訳
(2年生・非運動部員)

大 学		男	女	計	備 考
私 立	A	43	0	43	強い運動部をもつ私立大学
	B	79	0	79	
	C	150	0	150	小規模私立大学
	D	29	0	29	
国立	E	103	0	103	総合大学
公立	F	0	65	65	女子大学
私 立	G	0	106	106	
	H	0	112	112	
計		404	283	687	

対照群

私立	A'	71	0	71	運動部員
----	----	----	---	----	------

さて、この調査結果にもとづいて、「好意的反応」に2点、「非好意的反応」に0点、「どちらでもない」に1点、を付与して、各人の得点を計算し、得点の上位25%、下位25%を抽出して、項目分析したところ、4つの意見が削除された。また「どちらでもない」にチェックしたものが、全体の40%をこえる10の意見も、意見内容があいまいなものとして判断して削除した。その結果14の意見が削除され、結局44の意見からなるリッカート尺度を作ることができた。なお、この尺度の信頼性係数は意見削除の前

*小林篤：運動部員と一般学生の社会的態度の差異に関する研究。九州大学体育学研究2-4, 1960,

は 0.843, 削除後は 0.846であった。

尺度の内容は表 2 のとおりである。

表 2 態度尺度の内容 (各意見の前には, すべて「運動部員は…」という言葉が付く)

回答カテゴリーは「賛成」「どちらでもない」「反対」

1. 団結力がある。
2. 試合に勝つことだけを目的にしている。
3. 忍耐力がある。
4. 上級生の権力があまりすぎる。
5. 礼儀正しい。
6. 学校の宣伝に使われている。
7. 横暴である。
8. 授業の出席率が悪い。
9. 運動を本業にしている。
10. 規律正しい。
11. 金使いが荒い。
12. 人づきあいがよい。
13. 運動だけやっていけばよいと考えている。
14. 男性的だ。
15. 頭が悪い。
16. 服装が乱れている。
17. 授業態度が悪い。
18. 学力が落ちる。
19. 暴力的行動に走りやすい。
20. 保守的である。
21. 素直である。
22. 自己中心的である。
23. 学業をないがしろにする傾向がある。
24. 行動的である。
25. 教師にあまやかされている。
26. たくましい。
27. 運動部員であるという特権を用いすぎる。
28. 動作がきびきびしている。
29. 大学当局から不当に優遇されている。
30. 責任感が強い。
31. アマチュア精神に欠けている。
32. 学校に必要がない。
33. 創造力にとぼしい。
34. 「長いものにはまかれる」という考えのものが多
い。
35. 自分で考え行動することが少ない。
36. 学校行事に積極的に参加する。
37. 話し合いでなく力によって解決しようとする。
38. 学生生活にゆとりがある。
39. 学校に来る目的がはっきりしていない。
40. 威圧感がありすぎる。
41. 姿勢がよい。
42. 右翼的色彩が強い。
43. 小さいことにこだわらない。
44. わがままなところがある。

この新しい尺度によって, 各人の得点を計算し直し, これをもって各人の態度スコアとした。

Ⅲ 調査の結果

(1) 態度スコアの分析

表 3 は, 全体, 性別, 学校別の態度スコアの平均値と標準偏差を示したものです。スコアの中は 0~88 点で中間点は 44 点であるので, 表にみるように, 運動部員に対する一般学生の態度は, 全体的には好意的方向に寄っている。性別では, 女子が男子よりもいちじるしく好意的であり, したがって F, G, H という 3 つの女子大の学生の態度は, 他の大学の学生の態度より顕著に好意的です。なお, 小規模の私大 (D 校) のスコアは予想より, 若干低いですが, しかし, 強い運動部をもつ私大 (A, B, C 校) のスコアは, 一般的に低く, ほば仮説を実証している。

表 3 態度スコアの平均値と標準偏差

(スコアは高いほど好意的)

		\bar{x}	σ	備考	
全 体		54.8	15.71		
性 別	男	50.1	16.23		
	女	61.7	12.01		
学 校	私 立	A	48.0	16.65	強い運動部をもつ 私立大学
		B	43.7	15.32	
	国 立	C	50.1	16.47	小規模 私立大学
		D	48.7	17.92	
別	国 立	E	54.2	13.43	総合大学
別	公 立	F	62.7	11.17	女子大学
		私 立	G	61.7	
	私 立	H	61.0	13.75	

対照群

私 立	A'	58.4	14.93	運動部員
-----	----	------	-------	------

対照群 (A') が男子大学の一般学生より好意的なのは当然のことであるが, しかしながら, そのスコアは女子大の一般学生のスコアより低い。女子大の一般学生のスコアは予想以上に高い。

ところで, この表 3 にみるように, 全体の平均値は 54.8 で, 標準偏差は 15.71 です。平均値プラス $\frac{1}{2}$ 標準偏差以上の者, つまり 63 点以上の者を好意群とし, 逆に平均値マイナス $\frac{1}{2}$ 標準偏差以下の者, つまり 46 点以下の者を非好意群とし, その中間, 47 点~62 点までの者を中間群として, その比率を分類すると図 1 のとおりです。

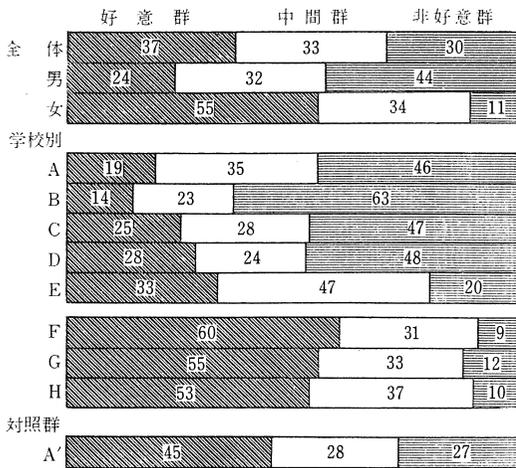


図1 態度スコアの分布 (%)

先ほど、強い運動部をもたないD大学の態度スコアが、A、B、C大学のスコアとあまり変わらないということ述べたが、しかし、この図のように分類してみると、この4大学のうち好意群の比率がもっとも高いのはD大学であることがわかる。

次の表4は、この分布の差を検定したものであり、図2は、この検定の結果を図示したものである。

表4 分布の差の検定

	A	B	C	D	E	F	G	H	A'
A	— — —			** **	** **	** **	** **	** **	*
B		— — —		** **	** **	** **	** **	** **	** **
C			— — —	** **	** **	** **	** **	** **	** **
D				— — —	** **	** **	** **	** **	—
E					— — —	** **	** **	** **	*
F						— — —	— — —	— — —	*
G							— — —	— — —	*
H								— — —	*
A'									— — —

** --- P < 0.01 * --- P < 0.05

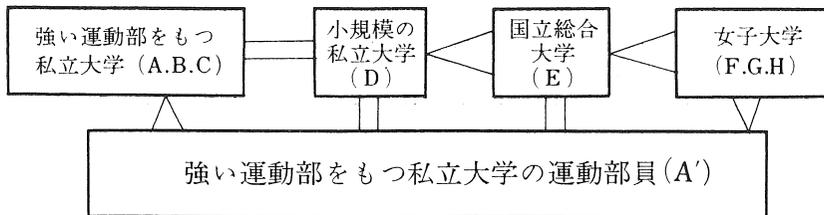


図2 表4を図にしたもの <有意差あり =有意差なし

以上が態度スコアを分析した結果であるが、次に、態度スコアのこのような大学間の差を生み出した原因を、態度尺度のアイテムに対する反応を分析することによって明らかにしたい。

(2) 態度尺度のアイテムの分析

過半数の者が好意的反応を示したアイテムを表にしたのが表5であり、また、過半数の者が非好意的反応を示したアイテムを表にしたのが表6である。表5では非好意的意見は好意的意見に書き換え、逆に表6では好意的意見は非好意的意見に書き換えてある。

表5にみるように、身体的特性、性格的特性、生活態度などでは、運動部員自身は、当然のことながら、「運動

部員は行動的であり、たくましく、動作がきびきびしており……」という具合に、ほとんどすべてのアイテムに対して過半数の者が好意的反応を示している。

これに比して女子大や国立大の一般学生は、もちろん運動部員ほどではないにしてもかなり好意的です。強い運動部をもつ私大の一般学生の反応との間に目立った差はみられない。

これによって、強い運動部をもつ私大の一般学生の非好意的方向に寄った態度がこれらの領域への反応の差によって生じたものではないことがわかる。表6にみるように、生活態度の領域においては、むしろ国立大の一般学生の非好意的反応が目立つのである。

表5 過半数が好意的反応を示した
アイテムとその反応の比率(%)
(各アイテムの前には、すべて「運動部員は
…」という言葉が付く).

		強い 運動部 をも	小規模 の私立 大学	国立 総合 大学	女子 大学	運 動 部 員
身 体 的 特 性	24. 行動的である.	70	72	64	66	87
	26. たくましい.	54		50	54	78
	28. 動作がきびきびしている.	52			50	75
	14. 男性的だ.	64				79
	40. 威圧感がない.			68	63	
	41. 姿勢がよい.					58
性 格 的 特 性	1. 団結力がある.	74	52	59	62	84
	3. 忍耐力がある.	63	55		60	83
	10. 規律正しい.					75
	22. 自己中心的でない.			56	60	
	21. 素直である.					65
	30. 責任感が強い.					66
	43. 小さいことにこだわらない.					58
	33. 創造力がすぐれている.					52
生 活 態 度	7. 横暴でない.			50	75	63
	12. 人づきあいがよい	51		57		76
	16. 服装がきちんとしている.				75	71
	5. 礼儀正しい.					83
社 会 的 態 度	19. 暴力的行動に走ることはない.			67	77	59
	27. 特権を用いない.			73	64	59
	37. 力による解決はしない.			69	69	62
	34. 「長いものには巻れる」ということはない.			52		51
	35. 自分で考えて行動する.				51	55
学 業 と の 関 連	2. 試合に勝つ事を目的にしていない.	53		55	66	59
	13. 運動だけやっていたはいけない.	51		78	77	65
	17. 授業態度が良い.		52	50	69	
	31. アマチュア精神に欠けていない.			62	61	69
	39. 学校に来る目的がはっきりしている.			66	62	65
	9. 運動が本業でない.			74	65	
	15. 頭が良い.				69	58
	18. 学力が上る.			53	66	
23. 学業をないがしろにしない.			52	53		
と 学 校 の 校 関 当 連 局	32. 学校に必要がある.	72	72	78	92	90
	29. 大学当局に優遇されていない.		55	82	64	
	25. 教師はあまやかしていない.			75	75	61
	6. 学校の宣伝に使われていない.			75	63	
	36. 学校行事に積極的に参加する.					54

一方、小規模な私大では、身体的特性および生活態度に関するアイテムへの好意的反応が少なく、他の大学に比してかなり異質である。

次に、表5の社会的態度、学業との関連、学校当局と

の関連の領域をみると、ここには歴然たる大学差が存在している。社会的態度に関するアイテムに対しては、運動部員自身は当然のことながら、国立大と女子大の一般学生も過半数はそのほとんどに好意的反応を示している

表6 過半数が非好意的反応を示したアイテムとその反応の比率(%) (各アイテムの前には、すべて「運動部員は…」という言葉が付く)

		強い運動部をもつ私立大学	小規模私立大学	国立総合大学	女子大学	運動部員
生態活度	5. 礼儀正しくない.			59		
	38. 学生生活にゆとりがない			57		
社会的度	4. 上級生の権力がありすぎる.	72	66			75
学業関連	8. 授業の出席率が悪い.	54	55	54		
	23. 学業をないがしろにする傾向がある.	52				
学局関係と連当の	6. 学校の宣伝に使われている.	65				57
	29. 大学当局から優遇されている.	54				

が、男子私大の一般学生では過半数が好意的反応を示したアイテムは1つもない。そして表6にみるように、これら男子私大の一般学生の過半数は、「運動部員は上級生の権力がありすぎる」という意見に賛成している。なお、この意見に対して、強い運動部をもつ私大の運動部員自身(A')も75%が賛成していることが注目される。学業との関連では、国立大や女子大の一般学生の反応は、強い運動部をもつ私大の運動部員自身の反応よりもさらに好意的である。男子私大の一般学生では過半数が好意的反応を示したアイテムはわずかしかない。また表6の非好意的反応では、私大の一般学生はもちろんのこと、国立大の一般学生でさえも、その過半数が「運動部員は授業の出席率が悪い」と思っているのに対して、運動部員自身は必ずしもそうは思っていないのが面白い。学校当局との関連では、運動部の必要性を認めるのは共通の傾向であるが、表6にみるように、強い運動部をもつ私大の一般学生の過半数は、運動部が学校の宣伝に使われ、不当に優遇されていると思っており、運動部員自身も、その過半数が自分たちが宣伝に利用されていると感じている。

Ⅳ 結 論

それぞれの大学の一般学生は、自分の大学の運動部員に対する態度はかなり好意的である、しかし、これを大学別にみるとかなりバラエティがあり、もっとも好意的なのは女子大学の一般学生であり、国立大学の一般学生がこれに次ぎ、私立大学の一般学生の好意度がもっとも低い。しかし今回の調査では、私立大学の中でも強い運動部をもつ大学の一般学生の好意度がとりわけ低いという仮説を十分に検証することはできなかった。その原因は調査校の中に、強い運動部をもたない私立大学を1校し

か加えなかったこと、しかもその私立大学の被調査者数が調査の手違いから非常に少なく、したがって調査結果そのものの信頼性に疑問があることによるものと考えられる。したがってこの仮説の検証は、なお、今後の研究にまたなければならない。

しかし、今回の研究では、態度尺度の各アイテムに対する反応を分析することによって、強い運動部をもつ大学において一般学生の好意度が低いことの原因を明らかにすることができた。運動部活動が、行動性やたくましさのような身体的特性、団結力や忍耐力のような性格的特性を育てることは、一般に了解されていることである。この調査においても、運動部員が自己評価するほど高いものではないにしても、一般学生はおしなべてこれらの面での運動部員の特性を評価している。

そこには、強い運動部をもつ私立大学の一般学生と、そういう運動部をもたない国立大学や女子大学の一般学生の違いはみられない。この2つのグループの一般学生の間、顕著な差を生み出すのは、運動部員の社会的態度、学業との関連、学校当局との関連などについての態度です。「暴力的行動」「力による解決」「特権意識」などは、運動部員に対するステレオタイプなイメージであるが、強い運部をもつ私立大学の一般学生では、これらのイメージを積極的に否定する者が過半数に達しない。

この点が、強い運動部をもたない国立大学や女子大学の一般学生の反応と対照的に異なる。この差異は、運動部員と学業の関連においてもあざやかです。「運動部員は運動を本業にしている」「学業をないがしろにしている」「学校に来る目的がはっきりしていない」「アマチュア精神に欠けている」「学力が落ちる」などの意見を積極的に否定するが、強い運動部をもつ私立大学の一般学生では過半数に達しない。一般学生だけではなく、運動部

員自身でさえも、これらの意見のうち若干のものに対してはこれを積極的に否定はしないのである。同じ傾向は学校当局との関連においてもみられる。強い運動部をもつ私立大学の一般学生では、「運動部員は学校の宣伝に使われている」「大学当局から不当に優遇されている」などの意見に過半数が賛成し、国立大学や女子大学の一般学生の反応とはあざやかな対照を示している。

以上の考察から明らかなように、強い運動部をもつ私立大学の一般学生の態度スコアがもっとも低かった理由は、運動部員の社会的行動の型、学業への取組み方、そして大学当局の運動部に対する考え方、そういういわば社会的存在としての運動部員に対する批判的態度による強です。強い運動部をもつ私立大学の運動部員自身でさえ、その態度スコアが女子大学の一般学生より低かったのも、運動部員の在り方に対する疑問によるものであるといえよう。

今回の研究は、かなり大ざっぱな分析にとどまりましたが、今後なお研究を進めて分析を深めたいと思う。

<付記> 調査の実施に際しては、

名古屋大学	小林 篤
中京大学	三浦 豊
中部工業大学	池田隆二
金城学院大学	只木英子
椋山女学園大学	林千代子
愛知県立大学	} 体育科の先生方
愛知学院大学	

諸先生方の御協力を得た。ここに記して、深く感謝の意を表したい。

参 考 文 献

- 1) 小林篤1960. 運動部員と一般学生の社会的態度の差異に関する研究.
九州大学体育学研究 2-4